



コナミ・デジQトレイン開発担当ディレクター。

RM TOYS SPECIAL 開発担当ディレクターに聞く

MICRO IR デジQトレインTMは どうだ!

取材：RMM / 写真：服部好弘
取材協力：コナミ株式会社
<http://www.konami.co.jp/cp/>



JR西日本認済
JR東海・西日本認済



第1弾の車輛ラインナップ4種。新幹線500系、EF58+24系25形客車、EF65(500番代)+24系25形客車、DF50+旧形客車。

コナミ株式会社から間もなく発売されるMICRO IR デジQトレインTM(以下デジQトレイン)。独自のデフォルメ、マニアックな車種選定、そして高度なコントロールシステムなど、既存の鉄道玩具にはないポテンシャルで鉄道模型ファンの間でも話題となっている。その第1弾がよいよ姿を現わしたのを期に、デジQトレイン開発担当ディレクターにズバリ直撃取材を試みた。

RMM：デジQトレイン発売を間近に控えてお忙しい時期と思いますが、お時間を割いていただきありがとうございます。予告の段階からすでに鉄道模型ファン層の注目を集めているデジQトレインですが、本日はファンの立場から突っ込んだお話を伺わせていただきたいと思います。よろしくお願いたします。

コナミ：どうぞお手やわらかにお願いします(笑)。
RMM：まずは開発担当というお立場から、デジQトレインの特色について伺ってください。
コナミ：まずサイズですね。デジQトレインは既存の鉄道玩具と比較してずっとコンパクトに作られています。これは小さなスペース

で走らせて楽しむことを主眼にしたもので、全長55ミリ、幅21ミリ、高さ約35ミリの寸法におさめたデフォルメとなっています。この基本スペックで、実車の雰囲気を最大限に再現することに力を注ぎました。結果的にデジQトレイン独自の持ち味を持った車輛を作ることができたと思います。

もう1つは高度なコントロールが可能なおことです。コナミのMICRO IRTM(以下MICRO IR)技術を使って、小さなサイズで非常に高度なコントロールが可能になっています。
RMM：MICRO IRとはどういうものなんだろう？



コナミ：MICRO IRとはコナミの新開発による赤外線利用の遠隔操作システムのことです。デジQトレインのこのサイズで、高度なコントロールを実現するには欠かせないものです。シンプルかつ低コストで、価格を低く抑えることができるのも特徴です。

RMM：コントローラーから赤外線で信号を送って車輈を制御するわけですね。具体的にはどんなことができるのでしょうか。

コナミ：まず車輈の加減速、進行方向の切替え。1つのコントローラーに最大8編成の列車を登録して、選択した列車を制御することができます。同じ線路上で最大4編成の列車を同時に走らせることが可能です。この場合はコントローラーは複数必要になります。

RMM：4列車同時運転が可能なのですかそれはスゴイ！



小さいながらもリアルで楽しいデフォルメがデジQトレインの身上だ。E F 58前頭部の絞り、先台車や掴み棒の表現、D F 50の屋上ファンや側面ラジエーターの彫りなど、嬉しい見どころがいっぱい。

コナミ：まもなく発売されるポイントもコントローラーの操作で切り換えられますから、各駅停車を急行が追い抜いたり、列車交換や入換など、かなり複雑な運転が楽しめると思いますよ。曲線半径はR176とR132を基本としていますから、ごく小さなスペースで可能なわけです。

RMM：う～ん、お話を伺っていると、かなり鉄道模型を研究されている様子ですが…。

コナミ：実は僕、Nゲージやってました。

RMM：そうなんですか。やっぱり…。

コナミ：車輈よりレールに興味があったんですけど…。

RMM：なるほど、そのあたりがデジQトレインの特色にも反映されているような気がしますね。

コナミ：それは意識していませんが、ただ既存の鉄道模型の特徴、できること、できないことについては念頭に置いて、デジQトレインならではの特色を出そうということは考えました。なんといってもレールと車輈とが電氣的にフリーな関係で、なおかつさまざまなコントロール機

能を持っているのがデジQトレインの特徴ですから、これを生かさないと手はありません。

RMM：「鉄道模型玩具」という呼び方にも、思い入れが感じられます。

コナミ：僕らが目指しているものがその言葉に集約されていると言いますか…。Nゲージは僕らにとってもある意味で頂点にあるもので、良いところはどんどん取り入れたいし、独自のカテゴリーを確立したいと思います。一方で遊びの部分に関しては幅広い年齢層も視野に入れて「玩具」としての面も盛り込みたい。

RMM：カプラーはNゲージでもおなじみのアーノルトタイプが使われていますね。

コナミ：そうなんです。当初はもっと単純な構造のものを予定していたんですが、レール上でストレスフリーに連結できることは重要だということになりまして。また入換えなど複雑な運転をする上でも適していると判断しました。

RMM：ということは、自動解放も考えておられる？

コナミ：考えています。まだ先になるかもし

デジQトレインはこうやって走る

鉄道玩具として画期的なコントロール機能を誇るデジQトレイン。鉄道模型と比較しながらその仕組みを見てみよう。

まず走行用電源。線路から電気を取るのではなく動力ユニットに組み込まれた充電式ニッケル水素バッテリーを使う。普通の乾電池よりも小型で、かつ強力なパワーの源になる。充電はコントローラーに設けられた充電ヤ-



ドに動力車をセットして行なう。10分間の充電で約15分の連続走行が可能だ。短いように感じられるかもしれないが、実際に1つの車輈を15分連続で走らせることはあまりない。1つのコントローラーで8輈の動力車を登録制御することができるので、8本の列車を順次運転すれば、連続2時間の運転が可能ということになる。実用上十分と言えるだろう。

動力車の制御は赤外線による信号で行なわれる。加速・減速・前後進切り替えなどの指令がコントローラーから発せられる赤外線が動力車に伝えられるのだ。動力車の上部には赤外線を受ける部分が露出しているが、注意して見ないとわからないほどの大きさだ。なおトンネル内など赤外線が届かない場所では制御不能となるが、6秒間は一定の速度での走行を維持しつづける仕組みとなっているから、まず心配

はいらない。

電源は車載バッテリー、コントロールは赤外線による無線制御...ということはコントローラーと線路の間には配線は一切不要。極めてシンプルである。なおコントローラーの電源は乾電池もしくは専用のACアダプター（別売）を使う。

さて、コントローラー上部の8つのボタンは8輈の動力車に対応し、登録してある8本の列車のいずれかを選択して任意にコントロールすることができる。さらにコントローラーが複数あれば、同一線路上で複数の列車を独立制御することができるのだ。最大で4本の列車を同時に動かすことができるという。

つまり鉄道模型におけるキャブコントロールやデジタル・コマンド・コントロール（DCC）に匹敵するシステムをデジQトレインは構築しているわけだ。これはやはり、驚嘆を禁じえないところだ。

気になるお値段は…。基本セット（車輈1編成・組立式エンドレス・コントローラー入り）が定価5,980円。このコストパフォーマンスにも注目だ。

注目の車輛ラインナップ

高度なコントロールシステムもさることながら、製品化ラインナップにマニアックな車種が揃っているのもデジQトレインの話題だ。5月30日発売の初回には、500系新幹線に加え、EF65およびEF58の牽く24系25形ブルートレイン、DF50の牽く旧形客車が含まれている。夏にリリース予定の第2弾は700系新幹線、253系(成田エクスプレス)、205系(山手線)そしてキ

ハ183系の4種。今後約3ヶ月ごとに4編成が発売される予定だ。その中には583系、485系ボンネットタイプ、165系、151系、キハ82系など国鉄の名車がズラリ。さらに80系(1次車と2次車の両方)や70系、キハ10系とくれば、嬉し涙にむせぶファンも多いことだろう。が、驚くのはまだ早い。名鉄モ510を筆頭とする路面電車シリーズや、大手私鉄電車シリーズの展開も予定されている。続報を待て!



今夏発売の車輛ラインナップは、新幹線700系、205系、253系(成田エクスプレス)そしてキハ183系の4種。続いて往年の国鉄の名車を中心に、各種車輛が続々登場の予定という。



デジQトレインのカブラーはNゲージでおなじみのアーノルトタイプ。将来は自動解放システムの導入も視野に入れているという。

れませんが、近い内に登場させたいと思っています。

RMM: デジQトレインは編成をいろいろと組み換えて楽しむこともできるわけですが、現状では最大何輛編成まで支障なく走行できるのでしょうか。

コナミ: 動力車1台あたりトレーラー3輛、最大4輛編成が基本となります。ただ新幹線などは動力車を複数入れる事で多編成での走行もできますよ。

RMM: 発表されている今後のラインナップでは、車輛やレールだけでなく各種ストラクチャーやジオラマセットなどの発売も予定されているようですが、具体的な計画についてお聞かせい
コナミ: いわば総合的なデジQトレインワールドを目指して情景アイテムも種々企画しているのですが、まずは車輛とレールの充実から先行させたいと思っています。ストラクチャーでは

ちょうど島式ホームと対向式ホームができたところ。独自のデフォルメを施した車輛に似合った車庫や駅などの鉄道関連施設から充実させていきたいと考えています。ジオラマ関係では、一体型のレイアウトベースを試作しています。デジQトレインはテーブルトップでの運転、具体的には70×50センチぐらいのスペースで十分に運転が楽しめることをコンセプトの1つとしており、ジオラマもそれぐらいのサイズを単位として、複数つなげればもっと楽しく遊べるようなものを計画しています。

RMM: コントロール関係など、鉄道模型のファン層にも魅力的な部分も多いのですが、たとえば将来的に、Nゲージや他のジャンルに対して技術提供などを行なう可能性はありますか。

コナミ: ないとは言えません。私たちの会社はジャンルを越えて面白いものを目指すことには熱心ですから、要望があれば、可能性はあると思います。

RMM: MICRO IRというものにはまだまだたくさんさんの可能性があるようですが、今後どのような計画がありますか。たとえばサウンドやライト類の点滅などが、走行とは独立してコントロールできると、鉄道模型ファンには嬉しいと思うのですが...

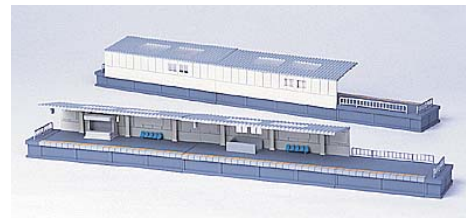
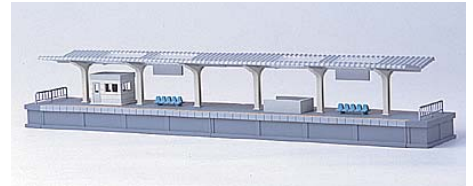
コナミ: そうですね、計画はいろいろあります。単にライトがただけなら比較的簡単ですが、点灯・消灯を行うにはコントローラーも含めてバージョンアップが必要になります。その時にはよりリアルな操作感を追求したいとも思っていますし、そのための試作も行なっています。技術的に可能なことはいろいろありますが、む

しろ「何が求められているか」という点が手探りの状態で、イベントなどで行なうアンケート結果などから、できる限り要望を盛り込んだ形で開発を進めています。

RMM: すると、要望次第の部分が大きいと言えるわけですね。

コナミ: そうです。今のところ「鉄道模型」の範疇からあまり逸脱しないように機能を制限している面もあるんです。発売後は実際にデジQトレインで遊んだユーザーのみなさんからのより具体的な要望が頂けるでしょうし、今後の製品展開にもおおいに反映していきたいと思っています。読者のみなさんから是非さまざまな御要望をお寄せいただきたいと思っています。

RMM: どうもありがとうございました。



情景グッズの数々も開発中。写真は近日発売予定のプラトホーム2種。上が島式、下が対向式。独自のデフォルメを施したデジQトレインにジャストフィットするデザインだ。



EF65 500番代の精悍な顔つきも御覧のとおり、リアルに再現されている。各種トレインマークを付けたこの顔が東京機関区にズラリと並ぶ光景も、デジQトレインなら容易にものができる。



見て下さい、この郷愁をさそう後ろ姿。大人の鑑賞に耐えうる造形の確かさがここにも発揮されている。しかもテーブルトップでリアルな運転が楽しめる手軽さが嬉しい。

デジQトレイン・コレクター予備軍に告ぐ

5月30日の発売を前に、26日にはデジQトレインの先行販売が東京・銀座の博品館で行われる。基本セットを購入するとオマケとして、他では手に入らない増結用客車セットを手に入れるとのこと。すでにデジQトレインの魅力にとりつかれているコレクター予備軍には見逃せない情報だ。26日は銀座へGO!

博品館 TOY PARK : 03-3571-8008
ホームページURL : www.hakuhinkan.co.jp



デジQトレインを9名様にプレゼント!! (詳しくは175頁をご覧ください)